

園だより5月

令和6年4月30日
台東区立田原幼稚園
TEL 3842 - 6477

新しい環境に溶け込むように

副園長 松井景子

園庭にはこいのぼりが空高く泳いでいます。5歳児ばら組の子供たちが作ったこいのぼりも、一緒に泳ぎ始めました。新年度がスタートして3週間が経ち、新しい保育室、新しい先生、新しい友達、その中で子供たちは様々な遊びを楽しんでいます。

5歳児ばら組は登園後すぐに自分のやりたい遊びを始めています。さすが田原幼稚園の環境をよくわかっており、園庭から離れた保育室になっても場所を選んで遊び始めます。園庭にある雑草や菜の花、レモンバームを遊びに使ってもよいとわかるよう先生方が掲示し、遊べる場を設定しておく、さっそく草花を使って色々なご馳走作りを楽しんでいます。遊戯室では年長児になったら使える大型積木を使うことが嬉しく、友達と一緒に運んで場を作り、先日お蕎麦屋さんがオープンしました。招待されてエビ付きのざる蕎麦を食べた後「大変！お財布忘れてしまいました。カードでも大丈夫ですか？」と聞くと、即レジの横にカードを置く所が出来ました。「カードを入れたら暗証番号を入れてください」と違う店員さんが「ピッ。カードをお取りください。ありがとうございました」と無事に会計が済みました。翌日には空き箱に数字や確定ボタンを書いた紙を貼ったカードリーダーができていました。状況から必要と感じ、それを自分たちの力で形にしていくことは、学びに向かう力につながります。

4歳児もも組は新しい先生、新たな友達も増えました。保育室では、空き箱や広告紙の棒等を自分なりに組み合わせて、様々なものに見立てて作ったもので遊んでいます。また、校庭にある田原の森のステージによじ登り、ジャンプして飛び降りることを誰もが繰り返し挑戦する姿が見られました。なぜこのように夢中なのか初めは不思議でしたが、それはもも組進級したらステージからのジャンプが解禁になったからでした。今は先生に手を添えられながらですが、ちょっとドキドキするけど、ジャンプして着地できた時の表情から、何とも言えない嬉しさを感じていることがよくわかります。「できた！」という満足感や達成感は「またやってみよう！」という意欲につながります。この繰り返し挑戦している姿も大事にしていきます。

3歳児うめ組は初めておうちの人と離れて過ごす子、初めての場所、初めての先生、という生活ですが職員みんなで関わり、おうちの人がいなくても、なんとか安心していられる場になってきました。園庭にも出て、砂場で遊んだりフロアーカーに乗ったり、作ったこいのぼりを持って走ったり、個々にやりたいことを楽しんでいます。ばら組のお兄さんお姉さんの様子もよく見ており、真似をしてレモンバームの葉を鼻に近づけると「びっくり！」の表情でした。「レモンの匂いだ」と言うと、次々周りの葉にも鼻を近づけ「これはお茶の匂いだ」「これは、ごまかな？」と匂いを嗅いでいました。感じたり思ったりしたことをふと口にしたこと、または言葉にもならない気持ちも「先生は受け止めてくれる」ことから、温かさを感じて、家族でない人の中でも信頼感をもち安心して自分を出せることにつながっていきます。

新しい環境は大人でもドキドキ緊張しますよね。でも、やりたいことを見つけて自分から関わり、様々な物事、人との関わりの中で、心も体もたくさん動かしている姿を見て、田原幼稚園の子供たちをととても頼もしく感じました。

幼稚園は主体的に関わり、体験から学ぶことを大事にしています。そのような姿をこれからもたくさんお伝えしていきたいと思えます。

私自身も子供たちに負けないよう、どんどん田原幼稚園に溶け込んでいけるようにしたいです。どうぞよろしく願いいたします。